第区章 史跡飯田古墳群の活用

1節 活用の方向性

本節では、第VI章2節の現状と課題、第VII章の大綱を踏まえ、史跡飯田古墳群の本質的価値をよりよい形で伝えるための活用の方向性を示す。

●史跡飯田古墳群の現地公開

史跡飯田古墳群は、ヤマト王権による政治支配や東国経営のあり方を物語る重要な文化財であるものとして、継続的に調査研究を進めて価値をより高めるとともに、古代が体感できる歴史文化資産として現地公開を進める。

●地域資産としての活用

史跡飯田古墳群は、地域の歴史や地域独自の魅力を示すものであることから、学校教育や生涯 学習に資する地域資産としての活用を進める。

●「地域を知る学びの場」、「人々が集い、交流する場」としての活用

史跡飯田古墳群を地域の成り立ちを学び、地域の魅力を知る「学びの場」としての活用を進める。さらに、史跡を核とする地域活動を推進し、地域を担う人材の育成にも繋がるよう、多様な主体が交流できる場としての活用を進める。

2節 活用の方法

史跡飯田古墳群における活用の基本は現地公開にあり、本史跡の特徴である多様性も現地で実物を見ることでより実感できる。現地公開は史跡を適切に保存することで可能となることから、見学者等来訪者の安全性を図るためにも、将来的には史跡の状況に応じた整備を検討する必要がある。なお、整備の基本的な方向性については第X章で述べる。本節では、前節で述べた活用の方向性を踏まえて、主にソフト面での活用の方法を示す。

飯田市教育委員会が主体となり実施する活用には、継続的な調査研究とその成果を活かした史跡の案内パンフレット等の作成、史跡に関する講座等の学習活動、出土遺物の展示公開、発掘調査を実施した際の調査速報発行や現地見学会等がある。また、教委事務局と社会教育施設は連携して、「伊那谷の自然と文化」をテーマとした学究・普及・継承・創造を重点とした事業を推進しているが、基本方針として行政が主体となる取組とともに、学校等教育機関、地域の諸団体、地域住民等と連携・協働した取組の推進や活動への支援を位置付けている。

活用の主な目的は、史跡の保護に対する理解を深めるため、史跡の存在とその価値を広く周知することにあり、活用の幅を広げるためにも多様な主体との連携・協働は欠くことができない。以下には、連携・協働、支援の面から、学校教育、生涯学習、地域活動、観光資源における活用について整理する。

1. 学校教育における活用

史跡飯田古墳群は、日本の古代史はもとより地域の成り立ちを物語るものであることから、実物を見ることを通して、学校での歴史学習・地域学習の生きた教材としての活用を進める。学校教育における 史跡活用を促進するための情報提供や活用方法について意見交換を行うなど学校との連携を図る。

小中学校においては、第2次飯田市教育振興基本計画に基づく「ふるさと学習」に係る資源の一つとしての活用を進める。学校だけでなく、調査研究や出土遺物の展示公開を行う社会教育施設(飯田市美術博物館・飯田市上郷考古博物館・飯田市考古資料館)とも連携して活用を進める。さらに、飯田市では学校と地域との結びつきが強く、「地域と共に学ぶ」、「地域が子どもたちを育てる」という取組が行われてきたことから、史跡を地域と学校が連携した活動を行う学習の場として活用する。これらを踏まえて、市は以下のような取組を進める。

- ○史跡への理解を深め、教材としての活用を促進するため、学校へ情報を提供する。例えば、学校 や保護者向けに作成している情報誌等に史跡の紹介や支援等の情報を掲載する。
- ○授業プログラムを考慮し、校外授業に取り入れやすいような支援や環境づくりを進める。
- ○現地での学習機能を充実させるためのわかりやすい解説等の工夫、さらに学習を補う情報媒体や 副読本**等の教材作成を支援する。
 - ※ 副読本として、『わたしたちの飯田市』(小学校)、『私たちの飯田市』(中学校)がある。
- ○地域の歴史に対する理解を深めるために、社会教育施設と連携した博物館見学や出土遺物を活用 した学習支援(出前授業等)を行う。
- ○史跡の現地見学と博物館見学・体験学習等を組み合わせた学習、また社会見学・地域学習の一環としての史跡利用、史跡巡りを遠足に取り入れる等、他の学習と結びつけた利活用を工夫する。
- ○学校教育と地域活動との連携・協働を進める。史跡 を活用したイベントの開催、学校が史跡見学する際 のガイドを地域活動として行うことで、学習・活動 の幅も広がると考えられ、市はその活動を支援する。



写真25 横穴式石室の見学風景

高等学校においては、「地域人教育**」等、地域で行われる探究的な学びを支援する。近年の史跡を活用した取組は現地見学や環境整備作業等であるが、史跡を通した地域学習と地域活動との連携・協働を視野に入れた支援を検討する。

※ 地域人教育は、地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材の育成を目的とするもので、長野県飯田 OIDE長姫高等学校が推進している。

2. 大学等教育研究機関と連携した活用

史跡飯田古墳群の特徴である多様性は、古代における中央と地方との関係や、地域間の交流を示すものであることから、関連する周辺地域や大学等教育研究機関と連携して調査研究を推進することにより、 史跡の価値をより高めることができる。また、大学等と連携することで外部から最新の情報を得るだけでなく、情報発信の場が広がることが期待できる。

- ○大学等と連携した史跡の調査研究を検討する。市はその成果を基礎資料として蓄積し、広く発信するとともに、調査を通じて大学と地域が交流し、学校教育や生涯学習に還元できるものとする。
- ○大学等と連携して、史跡や出土遺物の大学教育や博物館教育での利活用を検討する。例えば、飯田古墳群の特性を活かして、教材としての横穴式石室等の測量データの提供とか、博物館実習の教材として大学博物館等に馬具等出土遺物を貸出して展示公開してもらう等が考えられる。これらは、新たな情報発信になるとともに、将来的な調査研究にも繋がるものとなる。
- ○大学との連携については継続的な取組とするために、飯田市が推進する大学連携「学輪IIDA*」との調整を図る。
 - ※ 学輪IIDAとは、飯田市が実践する、飯田市を起点とする大学連携の取組を指す。

3. 生涯学習における活用

飯田市の生涯学習活動は各地区の公民館が拠点となり、地区の特性や環境に合わせた独自の取組となっている。また、各地区には歴史・文化を学び合う団体も数多く存在することから、市は史跡を地域の学びの場と位置付け、地域と連携・協働して以下のような取組を進める。

- ○生涯学習での活用を促進するため、史跡に関する情報発信を充実させる。史跡の紹介パンフレット等の配布、市のホームページ、市や各地区が発行する広報等で発信していく。さらに、地区公民館での史跡の紹介、地域の研究団体等と連携して団体が発行する冊子等への掲載、年齢性別を問わず多くの人が利用する図書館でも情報発信を図っていく。
- ○史跡の歴史的価値を伝えるだけでなく、史跡を通して地域に対する理解と愛着を深めてもらうため、地域学習の場としての活用を推進する。
- ○各地区の諸団体が実施する史跡を活用した学習活動を支援する。例えば、学習会・見学会への講師派遣、地区文化祭での史跡紹介や出土遺物の展示、イベントへの参画等があげられる。
- ○史跡の歴史的価値への理解を深めるため、地域の学習活動での出土遺物の活用を進める。
- ○学習活動を通じて史跡ガイド(古墳案内人)を育成 し、その活動を支援する。
- ○学習活動の一環として行う史跡案内のための資料や パンフレット等の作成を支援する。
- ○史跡だけでなく、周辺の文化財や自然も含めた幅広い地域学習とするために、市の社会教育施設とも連携して取組を推進する。
- ○史跡の役割を学習機能の面だけに特化するのではな く、ウォーキングコースに古墳や文化財の見学を取 り入れた健康増進等、多様なニーズに合わせた活用 を進める。





写真26 地域活動の紹介

4. 地域における活用

地域自治組織が策定した各地区の基本構想・計画には、地域の特色ある歴史文化資産を守り伝え、まちづくりに活かすという考え方が示されている。史跡を地域の魅力を示すシンボルと位置付け、学校と地域が連携して活用を図ることにより、特色あるまちづくりやまちづくりを担う人材の育成にも繋がる。

このことから、市は史跡を地域の魅力を発信する場、さらには地域住民のみならず多様な主体が集う地域活動の場、交流の場としての活用を進め、地域活動を支援する。

5. 観光資源としての活用

観光面では、市の観光部局等と連携して年1~2回程度の史跡見学ツアーを実施している。史跡だけでなく、近隣の観光スポットやイベントと合わせたツアーとなっており、今後も史跡だけでなく周辺の文化財も周遊するなど多様な見学コースを季節やニーズに合わせて提供していく。また、団体・個人を問わず、史跡見学を中心とする見学者に対しては、市のホームページやパンフレット・ガイドブック等での情報発信を充実させるとともに、今後は史跡見学がしやすい環境整備も検討する必要がある。

内外の見学者に対しては、史跡ガイド(古墳案内人)の存在が重要である。古墳案内人を通して、史跡への理解がさらに深まるとともに、市外からの見学者に地域の魅力を直接語ることで、親近感が生まれることが期待される。また、住宅地に所在し、様々な土地利用もある飯田古墳群の現状から、適切な見学を誘導するという点でも重要な役割を有する。各古墳の説明や案内は、地域の古墳保護団体が中心となって行っているが、「古墳案内人」としてより多くの人が参画できるよう、市は学習や運営の面から支援する。

さらに、史跡飯田古墳群とは東山道と呼ばれる古道によって繋がり、歴史的にも連続性がある史跡恒川官衙遺跡(飯田市)や史跡神坂峠遺跡(下伊那郡阿智村)と合わせた活用を図ることで、史跡への理解がさらに深まると考える。将来的には、古墳を介して繋がりをもつ周辺地域と連携した活用も視野に入れる。

このほか、毎年春に実施される飯田やまびこマーチは、令和元 (2019) 年度で第33回となるウォーキングイベントで、市内一周コースや体力に応じた複数のコースがあり、個人でも家族でも楽しめる。全国から人が集まり、飯田市の魅力をアピールする機会として、史跡飯田古墳群や恒川官衙遺跡を巡るコースの設定も検討する。



写真27 竜丘古墳まつり







写真28 保護団体によるガイド風景



写真29 飯田やまびこマーチ